

報告日 令和7年11月20日
報告回次 3回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	妙高市役所			代表者名	城戸 洋二
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	企画政策課	連絡先電話番号	0255-74-0005
担当者役職	課長補佐	担当者氏名	池田 潤	連絡先E-mail	
住所	944-8686 新潟県妙高市栄町5-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	行政改革推進
概要	実践的なワークショップ形式の研修やデジタル技術（AI等）を活用した政策の効果予測など、職員の実践的なデータ活用能力を育成するとともに、府内におけるさらなるデータ利活用推進を図り、データに基づいた政策立案体制を構築する。		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成） EBPM（エビデンスに基づく政策立案）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	703	令和7年11月14日	フォローアップ	オンライン
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年10月23日	フォローアップ（オンライン）	16時30分	17時30分	
				活動時間（分）	60
2-2. 派遣場所	会場名	オンライン		最寄駅	オンライン
	所在地	オンライン		最寄駅からの交通手段	オンライン

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	川島 宏一
評価	大変良い
上記評価の理由 (どのようなところがよかったです等詳細に)	オンラインで丁寧に助言を受けた。データ活用や仮説検証の進め方を具体的に示され、次の改善行動につなげる実践的なフォローであった。 また、オンライン形式を生かした双方向の質疑により、EBPMの実務力向上につながった。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	2人		
	属性	自治体職員				
		企業・団体				
	人数	2				
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果						
事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)		全般的なEBPMの推進を目指しているが、職員の知識レベルにバラつきがあり、特に「適切な成果指標（アウトカム）の設定」や「施策と成果の因果関係の整理」を実務に落とし込むスキルが不足していた。事前のアンケートでは、EBPMの意義を理解している一方で、具体的な検証計画の立て方やデータ活用方法に不安を感じている職員が多く、実務での実践に向けた動機付けと具体的な道筋の提示が課題であった。				
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)		課長補佐級職員がEBPMの基礎（ロジックモデル、PICO等）を習得し、自部署の事務事業において論理的な施策立案と効果検証を主導できるようになることを目指す。具体的には、施策の目的をアウトカム（成果指標）で定義し、因果関係を意識したワークフローを作成できる基礎能力の定着を目指す。				

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	9月に実施した対面研修（EBPMの基礎講義、PICO作成演習）に続き、11月14日にオンラインでのフォローアップを実施した。フォローアップでは、研修後に各職員が考案した具体的な施策の検証計画に対し、アドバイザーからデータ活用や仮説検証の方法について個別具体的な助言を受けた。特に、因果関係を検証するための比較対象の設定や、既存統計の活用可能性について専門的な指導を受けた。
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	効果測定アンケートの結果、受講後の職員の知識面（成果指標の選択、根拠の確からしさの判断能力）で有意な向上が見られた。特に「因果関係を検証する方法」や「PICOによる仮説整理」への理解が深まり、実務において検証計画を立てようとする行動意図の向上が確認された。オンラインフォローアップを通じて、曖昧だったアウトカム指標が具体化され、実務に即したEBPMの実践イメージが明確化された。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない まだありません
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	本研修およびフォローアップを通じて職員個人の理解と意識は大きく向上したが、組織全体としてEBPMを標準的な業務プロセス（ワークフロー）として完全に定着させるまでには至っていない。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても構構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 添付ファイルのとおりです（公開不可）
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい ③現段階では課題・問題が残っているため未定 次年度の予算編成や事業評価のタイミングに合わせて、設定したアウトカム指標の妥当性を再確認し、エビデンスに基づいた施策の改善（PDCAサイクルの構築）を実践する。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	従来の「経験や前例」に頼る施策立案から脱却し、客観的なデータと論理的根拠（エビデンス）に基づく施策立案が、全局的な標準業務プロセスとして定着している状態を目指す。

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお「その他」を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。